

臨床症例のIVUS像を提示し、IVUSの読みから、治療における有用性について勉強させていただきました。

治療前に行うIVUSの意義は、reference血管サイズの観察、device選択、病変アテローム性状及び血管リモデリングの確認、病変長の測定。線維性プラークであればDCA、表在性の石灰化が強ければローターブレードの使用、eccentricなプラーク内にリピットプールやプラークの深部での音響減衰が認めればDCAではなくGWを選択する。

特に複雑病変においてもっとも重要なことは病変・状況の正確な把握であるのでこの点においてIVUSは非常に有用である。今後もIVUSについてもっと勉強していきたいと考える。